


# 相談室たより(みさき)2016年4月



担当：みさき病院

MSW 福山 春宜



回覧板

桜の季節もあっという間に過ぎ去り、初夏の曇り気が色濃くなる今日この頃。熊本・大分では今でも余震が続き、被災されたみなさまには一日でも早く日常の暮らしが戻ってくることを願います。こうして暮らしていると何気ない日常が、とても幸せであることを気づかせられます。

4月の相談室たよりは、みさき病院の福山が担当します。テーマ『2015年経済的事由による手遅れ死亡事故』について、みなさんと事例をもとに学習を深めたいと思います。その他の広報紙や雑誌等で拝見された方もいると思いますが、しばしお付き合い下さい。

## 1 調査概要

2015年1月～12月までの期間で全国の民医連事業所の患者または利用者を対象に経済的理由により受診が遅れ死亡に至ったと考えられる事例を調査票に記入し担当者から提出を依頼する。

## 2 調査結果

32都道府県から63事例が集約され、福岡県連(米の山病院2事例)は最多の東京都連8事例に続き7事例が報告されました。

中高年の男性が半数以上を占め、独居で借家・アパート生活の方が多く、65歳未満の稼働年齢の雇用形態は、無職が5割、非正規雇用の方が3割を占めており、無保険・国保資格者証と国保短期証の方が5割以上。このことから、雇用の不安定さが健康格差に及ぼす影響が見えてきます。



## 3 特徴的な事例


### ◆その①

50代 男性  
月平均収入7万円の派遣業で生活。MSW

が相談を提案するも「仕事を休めない」ということで面会困難。来院を待てず訪問するが、その訪問日にも面会できずにその後自宅で亡くなられていた。

### ◆その②

70代 男性



妻と母の介護をしながら、アルバイトで生活費を稼ぐ日々。収入は月収10万円程。年金や国保保険料を支払う余裕がなく、無保険・無年金状態に。MSWより自治体へ相談したが「保険料を払わなかったのは本人の自己責任」「連絡したが生活保護を申請したいとは一言も言わなかった」などの返事。入院後生活保護の申請はできたが転院先で亡くなられた。

### ◆その③

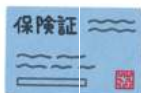
40代 女性

本人と兄、姉、両親の5人家族。一家の生計は両親の年金と兄の稼働収入。経済的に困窮し保険料の支払いができず更新できていなかった。同居家族全員が無保険の状態。数日前から体調不良・食欲不振が続き、心肺停止。救急搬入先で亡くなられる。

#### 4 調査から見てきたもの

##### ◆生活保護

今回提出された事例の約7割で導入された社会保障制度は「生活保護」。ではなぜこの生活保護が死亡に至るまでの疾病を起こした後に支援者の介入で申請されたのでしょうか？生活保護はもともと「最低限度の生活水準」を保障するセーフティーネット。「相談窓口がわからない」「世間体が気になる」「相談したが申請書をもらえなかった」など制度に対する課題はいくつかありますが、もっとはやくこの制度を導入することができていれば、回避することができていた事例も少なからず存在するかもしれません。



##### ◆経済困窮と地域からの孤立

経済困窮すると、生活を維持するために、居住費と食費に収入の大半を費やし、無駄な支出を抑えるために交際費を抑え地域から徐々に孤立していく。それと同時に保険料の支払いも滞り無保険状態になってしまう。無保険になると体調に不安を感じても病院に行くことを我慢し、孤立した地域の中では相談することもできない。特に、自己責任傾向の強い団塊世代は、困窮すると地域から孤立する傾向がある。



##### ◆高額な医療費

今回の事例の約6割の死亡原因は悪性新生物(癌)。自覚症状の少ない悪性新生物は、検診を受ける機会のない無職者には更に発見が遅れる傾向にあり、発見されても継続的な通院費や高額な抗がん剤の窓口負担が支払えず、受診を中断せざるをえない状況にある。

#### 5 事例に学ぶ大切なモノ

この相談室便りを拝見して頂いた医療従事者の方は「どうにかしたいが、一人でどうすればいいのかわからない」というのが、ほとんどの方の率直な意見でしょう。ただ、今回のように事例をまとめそれを発信するというのは、とても大切な作業なのだと思います。事例が集約されそれを一人でも多くの方に知ってもらい考える機会を与えることは、私たち医療従事者のアンテナの感度を高めることになるでしょう。事例にも登場した「中高年」「独居」「無職」といったいくつかのキーワードを並べただけでも、皆さんの中には脳裏をよぎる方がいるのではないのでしょうか。気になる方がいれば声をかけたり、適切な支援者に繋いだりするだけでも救えるいのちはあるかもしれません。

亡くなられた方のご冥福をお祈りします。

#### 親仁会へ入職されたみなさまへ

今年度入職されたみなさま親仁会へようこそ！

入職されて一定の期間が経ち、新卒の方には「自分はこの職業に向いているのか？」という不安を感じている方もいらっしゃると思います。以前学習会に参加したとき、講師の先生からお聞きした言葉ですが、「職業の向き不向きはわからないが、ポジティブな思考が求められる」とお聞きしたことがあります。医療・介護従事者が支援の対象とする患者さん・利用者さんは少なからずとも、疾病や年齢に伴うさまざまな不安を抱え少なからずともマイナスのポジションにいるかたを対象にします。私たち医療・介護従事者の大切な要素の一つにはこれから出会う多くの患者さん・利用者さんを少しでもプラスの方向へ導く手助けをするために、まずは私たち自身がポジティブに課題をみる思考が必要なのでしょう。